

かわかんネット

発行：東北河川管理技術研究会事務局 発行責任者 川名 慶紀

E-mail : kkawana@hazama.co.jp Fax : 022-266-6989

東北河川管理技術研究会の設立にあたって

東北河川管理技術研究会 会長
宮内 利夫

本年、春先の天候不順の低温の影響により桜の開花の遅れが話題となり、野菜や果樹への影響が懸念されている。

ここ数年、地球温暖化に伴う気温上昇や、局地的な集中豪雨が度々報道されている昨今であり、異常気象の現れかと思い出水期の洪水等が心配される気候です。

また、社会情勢も大きく変化し、公共事業の見直しによる工事関係費の減により東北整備局の治水事業においても、平成22年度予算は約773百億円（対前年度比 0.87）となっている。

東北整備局管内の堤防は総延長約1,600kmまで整備が進んでいるが、河川維持修繕費は約100億円で推移すると思われ、予算の増加は期待できない状況となっている。

このため昭和30年代頃の「整備重視」から「管理重視」への転換が求められて、河川管理施設については、既存施設が機能を発揮できるよう、コスト縮減に務め適切な維持管理を行い、有効活用し長寿命化対策を行うことが求められている。

このような背景のもと河川管理施設に携われ、東北河川管理技術研究会の趣旨に賛同された多数のご出席を頂き、平成22年3月23日設立総会を開催し、43名の会員をもって設立いたしました。

これからの当面の方向としては、河川部関係の現職員で組織する「河川管理のあり方研究会」のご指導と連携を図りながら、堤防・樋門等・河道についてのテーマ毎に、基本的な課題（例えば除草等）から段階的に取り組む所存です。

会員方々の、豊富な経験と知識やアイデアを頂き、本会設立の趣旨に応える成果が得られることを願う次第です。

会員の皆様には入会のお礼と関係する方々の、当研究会の活動運営にご協力とご支援を賜りますよう切にお願いを申し上げます。



東北河川管理技術研究会の設立にあたって

東北地方整備局長 青山 俊行

「東北河川管理技術研究会」の設立おめでとうございます。

現在、東北地方整備局が管理している直轄管理河川の堤防整備状況は、堤防が必要延長約 1,830km に対し、完成堤防が約 1,070km、暫定堤（暫々堤含む）が約 450km となっており、質的なものは別としても堤防が必要な箇所約 8 割が整備されています。

一方、ダム事業においても直轄で管理中のダムが 15 ダム、建設中が 5 ダムで、この建設中のダムが完成しますと直轄ダム群としては、総貯水容量で約 18 億 m^3 、洪水調節容量では 8.2 億 m^3 を有するまでになっています。この数は、東北地方整備局管内の直轄・補助をあわせた治水ダムの総貯水容量の約 70%、洪水調節容量では約 65%を占めています。

このような治水施設の整備によって水害被害は大幅に軽減されることになりましたが、その一方では膨大な量の河川管理施設を抱えることになり、これを的確に維持・管理していくことが治水安全度を確保することになります。

「人が造ったものは必ず朽ちる」といわれていますが、整備局が管理している堤防をはじめとする河川管理施設も例外ではなく、施設が持つ機能が持続されるように管理する技術とシステムを確立することが重要であるといえます。

このような時期に河川管理を経験した先輩諸氏による「東北河川管理技術研究会」が設立され、河川管理や維持に関する種々の議論や研究が行われ、それが実管理に活かされれば非常に貴重で重要なことであり、東北地方整備局としても「東北河川管理技術研究会」の活動や活躍に大きな期待をしています。



「東北河川管理技術研究会」発足

平成21年度末の3月23日、青葉区八幡町の公益ビルにおいて「東北河川管理技術研究会」は設立総会を開催し、全会一致で発足の運びとなった。

総会には、発起人及び当日までの応募会員の総員43名の内31名が出席し、委任状提出者10名を含め95%の出席率であった。また、東北地方整備局「河川管理のあり方研究会」の全員6名の方々にもご臨席をいただいた。

総会終了後には、青山俊行東北地方整備局長様から「管理の時代」と題して約60分、河川管理の課題や解決の糸口など示唆に富んだご講話をいただき、発会に相応しい道標となった。その後、ご来賓の方々を交え出席者全員で懇親会を行い、和やかな中にも河川管理技術の進展を誓い合い、盛会のうちに一連の行事を終了した。



設立総会（平成22年3月23日）

「米代川水防演習」

平成22年5月29日(木) 米代川流域の秋田県能代市中嶋地先において、「水防演習」を実施しました。

演習は、米代川流域9市町村から3,000人（水防団は15団体666人）が参加し、米代川流域で従来から用いられている水防工法の実演を行うとともに、東北6県の代表水防団で競う第5回東北水防技術競技大会も合わせて開催し、最優秀賞に秋田県代表仙北市消防団が、優秀賞に山形県代表南陽市消防団が受賞されました。

今回の演習運営では、菅原信雄氏（防災士）の解説、鹿子沢一衛氏の現地レポートをはじめ12名の防災エキスパートの方々に参加をいただき、成功裏に終えることが出来ました。



整列する水防団



甲村技監と防災エキスパートの皆さん



菅原氏の解説

現場で経験を

伊藤 君男

そこに物がある。その物をどのように、管理するか。

それには、先ず、その物が、何の目的で、どのような場所あるいはどのような箇所にあるのか。そして、どのように造られたのか等を知る必要があります。

我々が管理してきた河川管理施設もまさに、このことが基本になるのではないのでしょうか。

堤防・護岸・樋門・樋管等は、その計画・調査・設計・施工いずれの場合でも、かつては、職員自らペンを片手に、その過程において何度も現場に出向き、自分の目で確認し、修正をしながら業務を進めたもので、これらは、仕事に対する自信と経験の積み重ねにほかならない。

しかしながら、現在は時代の変化と多種多様な業務の増加等により、全ての過程が、委託業務あるいは工事契約になり、自ら、調査なり設計に直接携わる機会が少なくなって、現場経験の乏しい技術者が多くなっているのではないのでしょうか。

忙しく、多忙であっても、時間は見つけ出すもの・作り出すもの。発注業務を担当した工事現場に出向き、設計のとおり施工されているか否かを確認してほしい。こうすることの積み重ねが、技術者としての成長の礎になるのではないか。

さらに、構造物に対する意識の高まりにより、管理の仕方、管理のやり方の方向性が見えてくるのでは。

東北河川管理技術研究会の活動

1. 活動状況

- 1) 準備会<平成22年3月10日>
設立に向け、総会資料の確認(会則、役員、事業計画、予算の各案)、総会の運営について打合せを実施。
- 2) 設立総会<平成22年3月23日>
会員43名の出席により設立総会を開催。
設立総会后、青山東北地方整備局長より「公共事業を取りまく最近の話題」と題し講話をいただいた。
- 3) 第1回事務局会議<平成22年4月27日>
当面の活動計画として、組織体制(分科会)、会報発刊、研究会活動の方向性について打合せを実施。
- 4) 第1回理事会<平成22年6月22日>
分科会メンバー、会報名称、会報創刊号の発刊について、審議した。

2. 今後の活動予定

- 1) 全体会議と分科会 平成22年7月
- 2) 第1回分科会 平成22年9月
- 3) 第2回分科会 平成22年11月
- 4) 第3回分科会 平成23年2月

編集後記

木々の緑も一層濃さを増した今日この頃、3月に設立総会を開催し、早めに会報の発行をと思っていましたが遅れてしまいました。会報の発行はもちろんのこと、メール等でも出来るだけ会の動きを皆様にお知らせして行きたいと思っております。また皆様の会報への投稿、意見等をお寄せいただければ幸いです。

